自他支援シート

　　　　　　　　　　　　　　　　　　組　　　番　　名前

☆　このシートは、先生がみなさんのこと、学級のことをより良く知るためのシートです。日頃のみなさんの様子を先生に教えて下さい。自分のこと、周りの人のこと、周りで困っている人のことなど何でも結構です。自由に書いて下さい。

・最近、自分・周りの人ががんばっていること・うれしかったこと

|  |  |
| --- | --- |
| いつ |  |
| どこで |  |
| どんなこと |  |

・最近、周りで困っている人のこと

|  |  |
| --- | --- |
| いつ |  |
| どこで |  |
| どんなこと |  |

活用主旨及び取扱注意事項

活用主旨

　この「自他支援シート」は、学級担任が学級の子どもたちとより良い人間関係を築くためのシートである。日々私たち教師は子どもたちと接している。しかし、本当に子どもたちが話したい内容を、私たちは聞くことができているだろうか。日々忙しい毎日の中で、私たちはどれだけ子どもたちと信頼関係が築けているのだろうか。学級の子どもたち、一人ひとりとどれだけ会話ができているだろうか。学級に38人の子どもたちがいるとする。学級担任であるならば、38人全員のことを理解しなければならないし、何か聞かれたとき、38人全員のことを答えられなければならないと思う。子どもたちにとって、私たち学級担任は唯一一人である。「しんどい子」「手のかかる子」だけを相手にばかりしていてはいけない。学級には、「勉強のできる子」、「勉強の苦手な子」、「話好きな子」、「話すのは苦手だけど絵を描くことが得意な子」、「世話好きな子」、「なかなか人とコミュニケーションが取れない子」など38人いれば38人の特性があり個性がある。すなわち、教師と子どもたちとの１対１の関係を38通り作り、その関係性の中で子どもたち一人一人としっかりとつながりあわなければならない。加えて、中学校は教科担任性である。小学校とは異なり、常に子どもたちとずっと同じ教室（空間）にいることは現実的には難しい。

そこで、大切になってくるのが、「子どもたち相互の関係」「子どもたちの存在」である。子どもたちは基本的には同じ空間にいる。日々さまざまな活動を、同じ空間で取り組みながら、それぞれの関係が出来上がっていく。この営みは、時間の経過とともに深まりあっていくが、当然その関係性は変化していくものでもある。関係の変化は、良い方向に行く場合もあるが、上手くいかない方向に行く場合もある。場合によっては、「いじめ」の始まりにつながることになってしまう。いじめは、始まりで食い止めることが何よりも大切である。では、このいじめの始まりを私たち教師が気づき、知るためにはどうすればよいか。子どもたちに「聞く」ことが何よりも最善の策だと考える。子どもたちは同じ空間にいる。子どもたちの目は何より真実をしっかりと捉えており、子どもたちの知覚・感覚は何よりも鋭く、敏感なのである。すなわち、子どもたちの情報は、子どもたち自身が最も知っているのだ。子どもたちが知っている情報を教師に教えてもらう。「自他支援シート」はこのような働きもあるのである。

　「いじめ」はどんなときも、どんな場所でも起こりうる。だからこそ、「いじめ」を未然に防ぐ、たとえそれが難しくても、「いじめ」の被害を可能な限り小さく食い止めるようにしなければならない。いじめの未然防止、いじめの被害を小さくするためには、子どもたちの「力」も借りながら、打てる策は全て打ってでることが必要である。そのためには、子どもたちと１対１の人間関係を築き、子どもたちが安心して教師に心を開き、いろいろな情報を提供してくれる関係構築が求められるのである。また、「自己申告支援要望シート」にも書いたが、「人に頼る」ことは決して恥ずべきことではない。「人に頼る」姿を教師自らが見せ、人と人が信頼できることの大切さを学ばせることにもなるだろう。

この「自他支援シート」が、いじめ問題への対応策として活かされることはもちろん、何より常日頃からの担任と学級生徒との強い「信頼という絆」を結んでいくための一助になればと考える。それこそが「いじめ」を未然に防止する最大の手段であることに他ならないと考える。

取扱注意事項

・各学期のスタートから約一ヶ月後～半ば頃にかけて

（１学期：５月中旬、２学期･･･１０中旬、３学期･･･２月中旬：次年度学級編成資料としても活用できる。）

・このシートを子どもたちとの人間関係構築に使用する（子どもたちとの会話に活用する）。

・このシートを使用するときは、子どもたちに書かせて終わることのないようにする。